



宿南地区自治協議会総会

令和2年度宿南地区自治協議会総会を4月24日（金）に予定しておりましたが、4月18日の理事会において新型コロナウイルス感染拡大予防のため、書面議決方式による総会実施と決定されました。書面議決では、第1号議案～第5号議案までありますが、その内の、第3号議案の新役員・専門部会・第4号議案の事業計画を報告致します。尚、事業計画は、日程の決まっているものみの記載をしております。

【宿南地区自治協議会役員】

| 役職名 | 氏名 | 備考 |
|-------|---------|------------|
| 会長 | 木下 計介 | 町 区長 |
| 副会長 | 維田 浩之 | 口三谷区長 |
| 会計 | 池田 道昭 | 寄宮区長 |
| 理事 | 西村 正 | 川東区長 |
| | 高木 教行 | 川西区長 |
| | 伊木 久敏 | 門前区長 |
| | 多田 勝俊 | 青山区長 |
| | 太田垣 均 | 奥三谷区長 |
| | 西田 雄一 | 地域づくり部 部会長 |
| | 田村 弥也 | 体育部 部会長 |
| | 西村 朋也 | 文化部 部会長 |
| 米田 喜一 | 福祉部 部会長 | |
| 監事 | 多田 勝俊 | |
| | 伊木 久敏 | |

【宿南地区自治協議会専門部会】

| 専門部会名 | 役職名 | 氏名 |
|--------|------|-------|
| 自治振興部 | 部会長 | 木下 計介 |
| | 副部会長 | 維田 浩之 |
| 地域づくり部 | 部会長 | 西田 雄一 |
| | 副部会長 | 藤本 誠 |
| 体育部 | 部会長 | 田村 弥也 |
| | 副部会長 | 池田 範行 |
| 文化部 | 部会長 | 西村 朋也 |
| | 副部会長 | 宇和野敏之 |
| 福祉部 | 部会長 | 米田 喜一 |
| | 副部会長 | 池田十四子 |

【令和2年度事業計画】

| 日程 | 行事 |
|--------|-----------|
| 6月28日 | 農家日役 |
| 7月 4日 | ボウリング大会 |
| 8月14日 | 盆踊り大会 |
| 9月13日 | 宿南地区総合運動会 |
| 10月25日 | 村民号（出雲） |
| 11月22日 | 文化祭 |
| 2月27日 | ボウリング大会 |



お知らせ

6月14日（日）開催予定でありました**体力測定会**は、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、本年は**中止**となりました。





令和2年度「やぶ・がんばり学びタイム」

指導員募集

宿南小学校では、今年度「やぶ・がんばり学びタイム」を実施します。地域の方の力をお借りし、児童の学力保障を図る取組です。放課後に宿題やプリント教材等に取り組む児童（希望者）を指導していただける方を募集します。

週2回 各1時間

火曜日：4～6年生対象 15：45～16：45

木曜日：1～3年生対象 14：45～15：45

期間

6月1日～7月31日の期間に18回

5月1日～5月31日、8月1日～2月28日の期間に50回

資格

宿南地区の方

締切

5月末日

問い合わせ先

宿南小学校

TEL 662-2857



草庵先生紹介

日記 20



妻に「心学道話」を
読み聞かせる草庵

宮崎和夫さん作

35歳を過ぎた池田草庵から見れば、20歳前後の妻は社会的な経験も浅い。それに、やがて最初の子どもも生まれてくる予定だ。草庵は何かと心配することもあったのだろう。また、妻に人としてのさらなる成長を願っていたはずだ。草庵は妻と話し合いをしながら、あれこれと教えている。

結婚してから半年ほど経った頃の日記 ——

「講義は『伝習録』5ページ。また講義は『小学』1ページ。検読は1人、授読は5人。午後、一眠りする。目覚めてお茶。(中略) 午後の講義は『十八史略』。この日の読書は『論語学案』6ページ。黙座を香3本分する。妻と話し、あれこれとしばらく教える。それから就寝」(嘉永2〈1849〉年3月19日)

そして、この日の翌日には、妻に本を読み聞かせている。

「検読1人。授読5人。講義は『十八史略』1ページ。午後頭痛がして、横になったり、お茶にしたりして休む。この日『心学道話』を3冊読み、妻にこれを聴かせる。10時ごろ就寝」(同年3月20日)

この日の後も、たびたび妻に「心学道話」を読み聴かせている。

「心学」というのは、江戸時代に儒学や仏教、神道などを融合させて人の生き方、あり方などをわかりやすく説いた教えだ。青谿書院に移る前に、草庵が借りて塾を開いていた八鹿の立誠舎はもともとは心学を勉強する所であった。

「心学道話」というのは、その心学の内容を、物語やたとえ話などでわかりやすく書いた書物。

草庵と妻とのこのような時間は、子どもたちの誕生とともに少なくなっているが、草庵が晩年になってまた、「妻たちの^{ため}に『心学道話』を読む」(明治10〈1877〉年3月19日)とある。草庵の亡くなる1年半ほど前だ。草庵は生涯にわたって、妻にも人の生き方を教え、妻もそれを受けとめて聞き、学んでいたのだろう。

(提供 朝日新聞社)